Problems 1

Problems (Section 3)

章末問題の手の付け方,略解とかを書きたい.別の解答もあると思う.

3.1 方位角対称なポテンシャルを Legendre 多項式で展開したときの一般形

$$\Phi(r,\theta) = \sum_{l=0}^{\infty} \left(A_l r^l + B_l r^{-(l+1)} \right) P_l(\cos \theta)$$
(3.1)

に代入して境界条件から各係数を決定する. Legendre 多項式について成り立つ関係:

$$P_n(0) = (-1)^{n/2} 2^{-n} \binom{n}{n/2}$$
 (n: even, (:) は二項係数) (3.2)

を使えば良い.

3.2 (a) (3.1) のように展開して、表面電荷密度による境界条件を考えることで係数を決定する. Legendre 多項式の直交 関係式:

$$\int_0^1 d(\cos\theta) P_{l'}(\cos\theta) P_l(\cos\theta) = \frac{2}{2l+1} \delta_{l'l}$$
(3.3)

および, Legendre 多項式の基本的な式:

$$P_{l}(-x) = (-1)^{l} P_{l}(x) \tag{3.4}$$

を用いれば良い.

- (b) $E=-\nabla\Phi$ を用いて原点での電場を計算する。 $\hat{z}=\cos\theta\hat{r}-\sin\theta\hat{\theta}$ を用いると結果を \hat{z} のみで表すことができる。
- (c) (2) では $\beta = \pi \alpha$ として $\beta \to 0$ の極限を考えるとよい.
- 3.3 ちょっと後回しにする.
- 3.4 (a) ポテンシャルを球面調和関数を用いた展開で表す:

$$\Phi(r,\theta,\phi) = \sum_{l=0}^{\infty} \sum_{m=l}^{l} \left(A_{lm} r^{l} + B_{lm} r^{-(l+1)} \right) Y_{lm}(\theta,\phi)$$
 (3.5)

r = a の球面上で境界条件から各係数を定める。計算の途中で、

$$V(\phi) = \begin{cases} +V & \text{if } \frac{\pi}{n} \cdot 2j \le \phi \le \frac{\pi}{n} \cdot (2j+1) \\ -V & \text{if } \frac{\pi}{n} \cdot (2j+1) \le \phi \le \frac{\pi}{n} \cdot (2j+2) \end{cases}$$
 (for $j = 0, 1, \dots, n-1$) (3.6)

を用いる. また, 積分

$$\int_0^{2\pi} \mathrm{d}\phi \, V(\phi) \mathrm{e}^{-\mathrm{i}m\phi} \tag{3.7}$$

の計算があらわれるが、場合わけをして、 $m \neq 0$ のときを考えると、

$$\int_0^{2\pi} d\phi V(\phi) e^{-im\phi} = -\frac{iV}{m} \left[1 - \exp\left(-i\frac{m}{n}\pi\right) \right]^2 \sum_{j=0}^{n-1} \exp\left(-i\frac{m}{n}2j\pi\right)$$
(3.8)

となる.

まず、m/n が整数となるときを考える。 $m=0,\pm 2n,\pm 4n,\ldots$ のときは $\exp(-\mathrm{i}(m/n)\pi)=1$ となるので、積分はゼロ、残りとして考えるのは $m=\pm n,\pm 3n,\ldots$ である。このとき、

$$\exp\left(-i\frac{m}{n}2j\pi\right) = 1 \quad \text{for} \quad j = 0, \dots, n-1$$
(3.9)

である.

次に、m/n が整数とならない時を考える.

$$\sum_{j=0}^{n-1} \exp\left(-i\frac{m}{n}2j\pi\right) = \frac{1 - \exp(-i2m\pi)}{1 - \exp\left(-i\frac{2m}{n}\pi\right)} = 0$$
(3.10)

Problems 2

である (*m* は整数であるので、分子はゼロ) から、この場合は積分がゼロになる。 これらをまとめて

$$\int_0^{2\pi} \mathrm{d}\phi \, V(\phi) e^{-\mathrm{i}m\phi} = \begin{cases} -\mathrm{i} \frac{4Vn}{m} & \text{if } m = \pm n, \pm 3n, \dots \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$
 (3.11)

と書ける.

- (b) (a) の結果を用いて具体的に計算を進めていくだけであるが、Jackson §3.3 eq. (3.36) との比較の時には座標軸の取り方に気をつける必要がある。 具体的には、 $\cos\theta' = \sin\theta\sin\phi$ とすれば良い。
- |3.5| Jackson eq. (3.70) の式を r,a でそれぞれ微分して、差を考えて $d\Omega' V(\theta',\phi')$ で積分をすれば良い.
- 3.6 ポテンシャルが具体的に計算できるので、Jackson eq. (3.70) を用いて、球面調和関数で展開して、和を考えれば良い、この問題は易しい。
- 3.7 前問と同じように考えれば良い.
- $|3.8|\log(\csc\theta) = \log(1/\sin\theta)$ を Legendre 多項式で展開する。このときに積分

$$\int dx \log(1 - x^2) = (1 + x)\log(1 + x) - (1 - x)\log(1 - x) - 2x$$
(3.12)

を用いる. 普通に log 積分をしてしまうと発散してしまうことに注意. この積分は知らないと難しいかも.

3.9 円筒座標系での Laplace 方程式

$$\frac{1}{\rho} \frac{\partial}{\partial \rho} \left(\rho \frac{\partial \Phi}{\partial \rho} \right) + \frac{1}{\rho^2} \frac{\partial^2 \Phi}{\partial \phi^2} + \frac{\partial^2 \Phi}{\partial z^2} = 0 \tag{3.13}$$

を z = 0, L での境界条件に注意して解けば良い.

3.10 前問の結果を用いればよい. (b) での極限を考える時は,

$$I_{\nu}(z) \sim \frac{1}{\nu!} \left(\frac{z}{2}\right)^{\nu} + \mathcal{O}(z^{\nu+1}) \quad \text{if} \quad z \ll 1$$
 (3.14)

を用いると良い。また、三角関数の無限和を求める時は、exp の形にして無限級数として和を求めてその実部・虚部を求めると見通しが良い。また、log の虚部は arg で与えられることに注意。

3.11

3.12 円筒座標系で Laplace 方程式を解く. 境界条件は

$$V(\rho, z) = V\theta(a - \rho)\delta(z) \tag{3.15}$$

で与えられる. また, 公式

$$\int_0^\infty dx \, e^{-\alpha x} J_0(bx) = \frac{1}{\sqrt{\alpha^2 + b^2}}$$
 (3.16)

$$\int_0^\infty dx \, e^{-\alpha x} \left[J_0(bx) \right]^2 = \frac{2}{\pi \sqrt{\alpha^2 + 4b^2}} K \left(\frac{2b}{\sqrt{\alpha^2 + 4b^2}} \right)$$
(3.17)

を用いる. ここで、K(k)は、第一種完全楕円積分

$$K(k) = \int_0^{\pi/2} \frac{d\theta}{\sqrt{1 - k^2 \sin^2 \theta}}$$
 (3.18)

である.

| 3.13 | Jackson eq. (3.125) の Green 関数の表式を用いる.

$$\int_0^1 dx \, P_l(x) = \begin{cases} 1 & \text{if } l = 0\\ \frac{(-1)^k (2k-1)!!}{2^{k+1} (k+1)!} & \text{if } l = 2k+1; k = 0, 1, \dots\\ 0 & \text{if } l = 2k; k = 1, 2, \dots \end{cases}$$
(3.19)

PROBLEMS 3

に注意. 丁寧に計算を進めると problem 3.1 と同じ結果を得る.

3.14 線電荷密度を求めて、それを体積電荷密度で書くと

$$\rho_{c}(\mathbf{x}) = \frac{3Q}{8\pi d^{3}} \frac{d^{2} - r^{2}}{r^{2}} [\delta(\cos\theta - 1) + \delta(\cos\theta + 1)]$$
(3.20)

と表すことができる。Jackson eq. (3.125) の Green 関数を用いて球内部のポテンシャルを求めればよい。 $r \ge d$ で積分 の計算が異なるが, 丁寧に計算をすれば良い.

3.15

3.16 (a) Bessel の微分方程式

$$\frac{d^{2}J_{\nu}(k\rho)}{d\rho^{2}} + \frac{1}{\rho}\frac{dJ_{\nu}(k\rho)}{d\rho} + \left(k^{2} - \frac{\nu^{2}}{\rho^{2}}\right)J_{\nu}(k\rho) = 0$$
(3.21)

から出発して、部分積分、k,k'の入れ替えをして差を考えると、

$$(k^2 - (k')^2) \int_0^\infty d\rho \, \rho J_{\nu}(k\rho) J_{\nu}(k'\rho) = \left[\rho J_{\nu}(k\rho) \frac{dJ_{\nu}(k'\rho)}{d\rho} - \rho J_{\nu}(k'\rho) \frac{dJ_{\nu}(k\rho)}{d\rho} \right]_{\rho=0}^{\rho=\infty}$$
(3.22)

となる. $\rho=0$ では, $\Re(\nu)>-1$ の時にゼロとなる. $\rho=\infty$ の場合を考える. $\rho=R$ として, $R\to\infty$ を考えるこ とにする。Bessel 関数の漸近形を用いて、

$$\int_{0}^{\infty} d\rho \, \rho J_{\nu}(k\rho) J_{\nu}(k'\rho) = \lim_{R \to \infty} \frac{1}{\pi} \frac{1}{\sqrt{kk'}} \left[-\frac{\cos[(k+k')R - \nu\pi]}{k+k'} + \frac{\sin[(k-k')R]}{k-k'} \right]$$
(3.23)

と書き直すことができる.

さて、デルタ関数は、sinc 関数を用いて

$$\lim_{\epsilon \to 0} \delta_{\epsilon}(x) = \lim_{\epsilon \to 0} \frac{\sin(x/\epsilon)}{x/\epsilon} \frac{1}{\pi \epsilon} = \delta(x)$$

$$\lim_{\epsilon \to 0} \frac{\cos(x/\epsilon)}{x/\epsilon} \frac{1}{\pi \epsilon} = 0$$
(3.24)

$$\lim_{\epsilon \to 0} \frac{\cos(x/\epsilon)}{x/\epsilon} \frac{1}{\pi \epsilon} = 0 \tag{3.25}$$

として表すことができることに注意すると,

$$\lim_{R \to \infty} \frac{1}{\pi} \frac{1}{\sqrt{kk'}} \left[\frac{\sin\left[(k-k')R\right]}{k-k'} \right] = \frac{1}{k} \delta(k-k')$$
(3.26)

$$\lim_{R \to \infty} \frac{1}{\pi} \frac{1}{\sqrt{kk'}} \frac{\cos\left[(k+k')R - \nu\pi\right]}{k+k'}$$

$$= \frac{1}{\sqrt{kk'}} \delta(k+k') \cos(\nu\pi) = 0 \quad \text{if} \quad k, k' > 0$$
(3.27)

であるから,

$$\int_0^\infty d\rho \, \rho J_{\nu}(k\rho) J_{\nu}(k'\rho) = \frac{1}{k} \delta(k - k') \tag{3.28}$$

が従う.

- (b) 基本的には §3.11 の議論を追えば良い.
- (c) (b) の結果を用いるだけ.
- (d) Bessel の積分表示

$$J_n(x) = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} d\theta \cos(n\theta - x\sin\theta)$$
 (3.29)

$$= \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} d\theta \cos(n\theta - x\sin\theta)$$
 (3.30)

Hansen の積分表示

$$J_n(x) = \frac{1}{\mathrm{i}^n \pi} \int_0^{\pi} \mathrm{d}\theta \,\mathrm{e}^{\mathrm{i}x \cos\theta} \cos(n\theta) \tag{3.31}$$

Problems 4

3.17 (a) Fourier 展開 (・半区間展開) を用いると,

$$\delta(\phi - \phi') = \frac{1}{2\pi} \sum_{m = -\infty}^{\infty} e^{im(\phi - \phi')}$$
(3.32)

$$\delta(z - z') = \frac{2}{L} \sum_{n=1}^{\infty} \sin\left(\frac{n\pi z}{L}\right) \sin\left(\frac{n\pi z'}{L}\right)$$
 (3.33)

と展開できる.

- (b) problem 3.16 (a) の結果を用いて、 ρ 方向と ϕ 方向について展開をした後、z 方向について Green 関数の満たすべき条件を考える。
- 3.18 (a) 円筒座標系での Laplace 方程式を境界条件

$$\begin{cases} \Phi = 0 & \text{on } z = 0 \\ \Phi = V \theta (a - \rho) & \text{on } z = L \end{cases}$$
(3.34)

で解く.

- (b) Bessel 関数, sinh 関数を級数展開して、最低次の寄与を計算する.
- (c) (b) と同様.
- |3.19 | Gradshteyn & Ryzhik, p.722 eq. (6.666) より

$$\int_{0}^{\infty} dx \, x^{\nu+1} \frac{\sinh(\alpha x)}{\sinh(\pi x)} J_{\nu}(\beta x) = \frac{2}{\pi} \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} n^{\nu+1} \sin(n\alpha) K_{\nu}(n\beta) \quad (\text{for } |\Re(\alpha)| < 1, \Re(\nu) > -1)$$
(3.35)

である.

- 3.20 problem 3.17 で考えた Green 関数を用いてポテンシャルを計算することができる.
- | 3.21 | problem 1.18(b) での結果を用いる。また、Gradshteyn & Ryzhik eq. (6.554) より

$$\int_0^1 dx \frac{x}{\sqrt{1 - x^2}} J_0(xy) = \frac{\sin y}{y} \quad \text{for} \quad y > 0$$
 (3.36)

である.

- (c) で $d \gg R$ のとき、変分法を使って求める方法がわからない…
- 3.22 二次元の Green 関数を求める問題. $\phi=0, \beta$ でゼロとなる境界条件に注意して考えれば良い.
- 3.23